



## 筑波大学新聞 第319号

雑誌名	筑波大学新聞
号	319
発行年	2015-01-26
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00123395">http://hdl.handle.net/2241/00123395</a>

# 筑波大学新聞

第319号

編集責任  
筑波大学新聞  
編集代表  
福原直樹  
TEL: 029(853)2040・6699  
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1

## 紙面から

みんラポ	高齢者の声製品開発に活用	2
絶対音感	「笑み」に圧倒される公演	5
ラグビー	全国大学選手権 初優勝逃す	8
柔道	永瀬 グランドスラム東京連覇	9
ノーベル財団理事長講演	永田学長と対談	10
漂流する教室	主体的な学びを支援	11
ミニ特集		3
旅立つアスリートたち		
特集		6,7
筑波大生「支持政党なし」77%		

## ノーベル財団理事長単独インタビュー 「独創性を持って」

### 賞金額引き上げ視野に



ヘルディン理事長

筑波大学に1月、講演で訪れたノーベル財団理事長のカール・ヘンリック・ヘルディン氏は、講演に先立ち本紙の単独取材に応じた。この中で理事長は、今後のノーベル賞の課題として「賞の『価値』を上げる」ことを指摘。近年、減額された賞金を元のレベルに戻す意向を示した。また過去、賞にふさわしくない受賞者がいたことを認め、「適切な選考を行って賞の信頼性を守りたい」と語った。理事長はノーベル賞を目指す筑波大の学生、研究者に「独創性を持ってほしい」と話している。(福原直樹＝本紙編集代表、平嶋健人＝社会学類3年、佐々木優＝知識情報・図書館学類3年、10面に発言内容と関連記事)

ノーベル賞は資金難から2012年、賞金が1000万クロナ(約1億4500万円)から800万クロナに下げられた。これについて理事長は、「ノーベル賞は資金難から2012年、賞金が1000万クロナ(約1億4500万円)から800万クロナに下げられた。これについて理事長は、適切な選考を行って賞の信頼性を守りたい」と語った。理事長はノーベル賞を目指す筑波大の学生、研究者に「独創性を持ってほしい」と話している。(福原直樹＝本紙編集代表、平嶋健人＝社会学類3年、佐々木優＝知識情報・図書館学類3年、10面に発言内容と関連記事)

同賞は物理学など6部門。理事長によると各部門の選考委員会(数人で構成)が毎年、世界の有識者1000～数千人に推薦状を送付。通常、数百件の返答があり、委員会はこれの中から候補者を絞る。この後、委員会はスウェーデン王立科学アカデミーなどにこれを報告。そこで議論され決定するが、この間の選考経緯は受賞から50年間、公開されない。

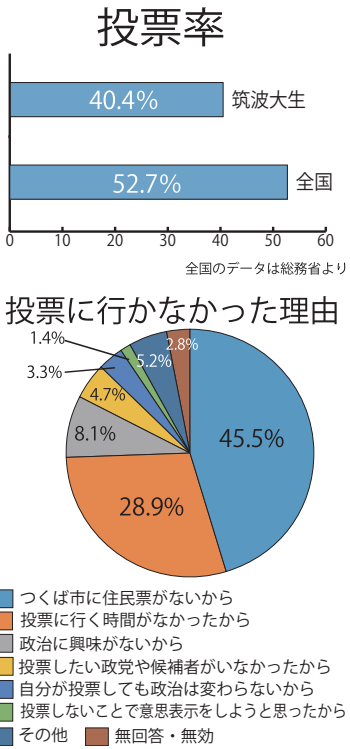
この審査の「秘密性」について理事長は、「外部からの圧力に屈せず、独立した審査を行うために重要だ」と指摘。また、賞の選考委員会については「利益相反や汚職行為を禁ずる規定がある」として、選考過程の公正さを強調した。一方で、ノーベル平和賞の選考



1月17-18日に、大学入試センター試験が行われた。受験生は緊張した面持ちで、試験開始の合図を待っていた。今こそ、努力の成果を全力でぶつける時。あこがれの大学生活まで、もうひと頑張りが。 (原啓一郎＝社会学類4年、写真・小野憲司＝同1年)

## 筑波大生の投票率40%

### 衆院選 全国平均12ポイント下回る 本紙調査



本紙は1月、筑波大生454人を対象に、昨年12月の衆議院議員総選挙や政治意識に関するアンケート調査を実施した。その結果、選挙権を持つ筑波大生(356人)で投票に行ったのは40.4%だった。総務省の調査による投票率の全国平均は52.7%で戦後最低だったが、更にその値を大きく下回っている。無投票は「つくば市に住民票がない」が大きな理由で、これらの学生の過半数が不在者投票制度を知らなかった。一方、周囲の

筑波大生と政治について話をした。この結果について日本政治が専門の竹中佳彦教授(人社系)は、「(不在者投票は)若干手間がかかる。更に今回の衆院選は自民党が圧倒的に強く、野党の力が弱い『一強多弱』。安倍内閣継続が容易に見えたため、わざわざ制度を利用してまで投票する必要を感じなかったのだ」と分析した。

調査の際に追加取材への協力を申し出た学生3人で、1月15日に実施した座談会でも「制度利用の手続きが煩雑すぎる」「若者の投票率を上げるには、制度を簡便化すべき」という声があがった。

また、調査結果には野党第一党である民主党が学生に支持されていないことが示された。「支持政党があるか」という問いでは「支持なし」が77.3%で最多だったが、自民党11.7%、公明党2.4%で、民主党

は0.4%と大きく落ち込んだ。今後の野党に何を望むかという問いに対しては、「野党間の連携強化による『野党への対抗』が36.8%と最多で、「何も望まない」15.2%、「野党再編」は11.2%だった。(添島香苗＝生物学類2年、6、7面に調査結果と関連特集)

不在者投票制度は、選挙期間中に選挙人名簿登録地以外の市町村に滞在している人が、滞在先から地元の選挙区に投票できる制度。

## クレジットカード 4月から

### 大学周辺の店舗で利用特典

三井住友カードと提携し、筑波大学関係者を対象に4月から始まるクレジットカード事業の準備が進んでいる。カードの名称は「筑波大学校友会カード」で写真。通常のクレジットカードのサービスのほか電子マネーも利用できる。現在、新入生や在学中に案内するとともに、カード利用特典の協力店舗を募っている。

校友会カードを利用できるのは、筑波大の在学生のほかに卒業生、教職員など。協力店舗でカードを利用した提示された場合、割引などの特典が受けられる。協力店舗は筑波大周辺の商業施設や不動産会社、飲食店など50以上になる見通しだ。事業を進める筑波大連携・渉外室の古山陽一室長は「学生生活のさまざまな場面を想定し、幅広い種類の店舗に特典への協力を依頼している」と話す。

連携・渉外室は、2月末に配布するパンフレットで特典をまとめて紹介したり、協力店舗の入り口に目印となるステッカーを貼るなど広報活動にも力を注ぐ。ステッカーのデザインは、校友会カードのデザインを手がけた西川潔名誉教授が担当する。

また電子マネーサービス(iD)は、カードを専用

見や誤解のもとだ。「色の付いた事実」に紛れた真実がいくつあるか、想像もつかない▼昨秋の本紙調査で、学生の約9割が授業中にスマートフォンを使用している実態が明らかになった。「学生の意識が低いから」「授業が退屈なせい」など、その見方も人により異なる。色眼鏡をかけたまま一つの見方に固執するのはなく、さまざまな議論をすることが一番の解決策になるはずだ▼若いころ、シャボン玉でよく遊んだ。透明な石鹸水からできたシャボン玉は見る角度を変えれば変幻自在に色を変える。同じように、事実の解釈も「十人十色」だ。和色のような些細な色のバリエーションを大切にしながら、議論を進めていきたい。

## 筑波おし

寒さが一段と厳しくなってきた。春や夏、秋と比べて、白っぽい冬の景色はどこか味気なさを感じる。だが、日本の伝統色「和色」には白色だけでなくさまざまな色がある▼わずかに黄色がかった白を表す練色、灰色帯びた白である灰白色、わずかに青みがかった白の卯の花色……。300色を超える和色を考えれば冬景色も違って見える。和色は、自然と寄り添いながら生きてきた日本人の情緒の豊かさも表している▼同じ「色」でも、「色眼鏡」で人や物事を見ることは歓迎されない。微妙に違う色も「色眼鏡」越しに見れば、時には単色にしか見えなくなる。そしてそれはさまざまな偏



(添島香苗)







# 誰もが暮らしやすい社会の実現へ 高齢者の声 製品開発に活用

「みんラボ」

## 使いやすいさを検証

原田悦子教授（人間系）らの「みんなの使いやすいラボ（みんラボ）」の取り組みが好評だ。高齢者にモニター試験に参加してもらい、その声を製品開発に反映。誰もが暮らしやすい社会の実現を目指す。国内外でも例がないユニークな取り組みが注目されている。

原田教授は、携帯電話など、欠な製品がうまく使えない日常生活を送る上で、ために、高齢者の生活の質



みんラボのホームページを背にほほ笑む原田教授＝本人提供

が低下していることに着目。2011年に人間系やシステム情報系の教員と「みんラボ」を設立した。茨城県の県南地区在住の60歳以上の男女をボランティアとして約200人集めた上で、つくば市吾妻にオフィスを設け、そこで高齢者によるモニター試験を始めた。

主な試みの一つが「使いやすいさ検証」。民間企業から依頼された製品を高齢者が使っている様子を心理学の見地から分析する。

実験では、高齢者が説明書を見ながらタブレット端末を操作したり、レトルト食品を調理する様子をビデオカメラで撮影。高齢者がどのように製品を扱い、どの場面で扱いに困るか企業担当者と共に観察・分析する。その結果から、使いやすい製品へと改善するため

に、企業にさまざまな提案する。みんラボでは高齢者を登録する際、健康状態や価値観など200を超える項目を調査し、データベースに記録している。企業の要望にあった参加者の抽出が可能で、製品の「使いやすさ」の原因を究明しやすくしている。昨年には、全ての人が使いたいものづくりを目指す活動が評価され、国際ユニバーサルデザイン協議会（IAD）主催の「IAD AUDアワード2014ソーシャルデザイン部門」で金賞を受賞した。



「科学の芽」賞を受賞した小学生による研究発表

「科学の芽」賞

## 小中高18件が受賞 ユニークな視点光る

小・中・高校生を対象に、科学や自然現象についての優れた研究を募集する朝永振一郎記念第9回「科学の芽」賞の表彰式が昨年12月20日、大学会館ホールで行

われた。受賞者による研究発表も行われ、訪れた人々は子どもたちのユニークな視点に感心していた。「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した朝

永振一郎博士（旧東京教育大学学長）の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は昨年より100件多い2155件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で8件、高校生部門で2件の研究が「科学の芽」賞を受賞した。

小学生部門で受賞した立花健さん（筑波大学附属小学校4年）はアゲハチョウの観察を記録した。同賞の審査委員は「セミの羽化についての自由研究は多くあるが、ここまで深く追究したものを見たことがない」と高く評価した。

（山野辺拓実）社会学類1年

## 訃報

前筑波大学男子バレーボール部監督の都澤凡夫名誉教授が10日、脳症のためつくば市内の病院で亡くなった。66歳だった。現役時代は筑波大でバレー部の中心選手として活躍。その後富士フイルムに入社し、全日本代表候補にもなった。選手引退後、1987年に筑波大バレーボール部の監督に就任し、6連覇を含む8度のインカレ優勝にチームを導いた。92年のバルセロナ五輪で活躍した中垣内祐一を始め、多くの日本代表選手を育てた。

## 催事

### ATGC展

「ATGC展―芸術の目から見る生物学―」が1月30日―2月4日に筑波大学総合交流会館多目的ホールで開催される。生物学に触れて感じたことを芸術作品として表現して展示する作品のジャンルは、絵画からメディアアートまでさまざま。生物学類と芸術専門学群に所属する学生の有志と、村上史明助教（芸術系）によって企画開催される。

問い合わせ＝s1210557@u.tsukuba.ac.jp（代表）

詳細＝https://www.facebook.com/atgc.tenrankai?hc\_location=timeline（ATGC展―芸術から見る生物学―フェイスブックページ）

### 筑波大学国際テニスストーナメント

第5回筑波大学国際テニスストーナメントが3月28日―4月4日まで筑波大学体育テニスコートで開催される。国立大学で唯一の、世界のトップを目指すプロが集まる国際テニス大会。ウィンブルドンなど四大国際大会への登竜門となっている。大会のほかにも各種イベントを開催予定。3月28日は午前9時から試合開始予定。観戦は無料。問い合わせ＝tsukubafutures.1@gmail.com（代表）

詳細＝http://www.tsukubafutures.com（大会ホームページ）

### 平成26年度卒業式・学位記授与式

平成26年度卒業式が、3月25日に大学会館講堂で行われる。9時10分開場、10時に開式し、10時55分に閉式。28日には、東京キャンパスで大学院学位記の授与式が開かれる。12時10分開場、13時開式、13時55分に閉式。問い合わせ＝so.somuka@un.tsukuba.ac.jp（総務課）

持つOBと質疑応答を何度も練習し、発表の質を高めた。リーダーのウタム・サリディープさん（国経2年）は「アジア太平洋地区大会は母国語が英語の審査員が多く、国内大会よりも充実した内容を速く正確な英語で話すことが求められる。厳しい戦いになると思うが、自信を持って臨みたい」と意気込みを語った。（齋藤優斗）

## 筑波大と産総研

### 縦割り行政超え共同出資 「研究費のあり方を変革」

筑波大学は、産業技術総合研究所（産総研）と共同研究費を出し合い、双方の研究者で構成した研究チームが提案する共同研究に資金を提供する「産総研と筑波大との合わせ技ファンド」を設立した。従来、所管省庁の異なる研究機関が共同研究を行う場合、縦割り行政の影響で研究チームはどちらかの機関の予算しか使えなかった。だが今

る。老化防止に役立つサプリメントの開発などへの応用が期待されている。ファンドの設立に携わった同本部の内田史彦議役は「省庁の壁を超えた共同研究は非常に珍しく、革新的だ。研究成果は、更に企業などに提供することで実用化が進められる可能性もある。この試みを機につく

分析する研究拠点「サービス工学ビッグデータCOE」を設立した。ビッグデータとは、商品の売り上げや、防犯カメラの映像、ツイッターのつぶやきなど、あらゆるデータの集まりを指す。データを組み合わせ、分析することで、消費者の好みを推測したり、犯罪が多い場所を特定するなど有益な情報が得られることから、近年注目されている。

英語でプレゼン競う  
世界大会目指す  
企業の経営状況やビジネスモデルを、投資家の立場から英語でプレゼンテーションし、その説得力などを競う大会「CFA協会リサーチ・チャレンジ2014-2015」が、昨年12月5日に日本CFA協会（東京都千代田区）で行われた。予選を勝ち抜いた4チームが参加し、社会

人向け夜間大学院の国際経営プロフェッショナル専攻チームの5人が優勝した。同大会では中古車販売会社の実績や将来性についてプレゼンテーションを行い、資料や発表の分かりやすさが評価された。チームは3月11―12日にフィリピンで開催されるアジア太平洋地区大会に出場し、世界大会進出を目指す。

チームが応募した67件の共同研究から同本部と産総研が9件を選んだ。採用された研究の一つが、細胞内でエネルギーの代謝を行う器官、ミトコンドリアの詳細な動きを解明するもの。筑波大が行ってきたミトコンドリア研究に加え、産総研が持つ高精度の顕微鏡技術を組み合わせて、ミトコンドリアの分子レベルでの動きを把握する。本最大級の研究機関。つくば市梅園と東京の経済産業省内に本部を置く。

筑波大学システム情報系は1月1日、企業や自治体を持つ「ビッグデータ」を分析する研究拠点「サービス工学ビッグデータCOE」を設立した。ビッグデータとは、商品の売り上げや、防犯カメラの映像、ツイッターのつぶやきなど、あらゆるデータの集まりを指す。データを組み合わせ、分析することで、消費者の好みを推測したり、犯罪が多い場所を特定するなど有益な情報が得られることから、近年注目されている。

同拠点では、ビッグデータを解析することで、企業や自治体が提供するサービスの改善、向上を目指す。大手コンピュータ会社（IBM）がデータ解析

同拠点では、ビッグデータを解析することで、企業や自治体が提供するサービスの改善、向上を目指す。大手コンピュータ会社（IBM）がデータ解析



## つくばリサイタル・シリーズ クラリネットの音色に触れる

デザイン＝田中開(教育学類1年)



クラリネットを奏でる金子さん (1月13日、大学  
会館ホールで)

### プロの奏者が演奏

つくばリサイタル・シリーズ実行委員会が主催するコンサート「第3回ドイツ・ロマン派、珠玉のクラリネット名曲集」が1月13日、大学会館ホールで行われた。目玉は、J・ブラームス作曲「クラリネット・ソナタ第一番」。会場には学内外から約160人が訪れ、ピアノとクラリネットの音色に耳を傾けた。(山野辺拓実＝社会学類1年、写真も)

つくばリサイタル・シリーズは2年前から行われているコンサート企画で、毎回プロの演奏家が招かれる。今回の演奏者は読売日本交響楽団首席クラリネット奏者の金子平さんと、音楽大学でピアノなどを指導している鈴木慎崇さん。ブラームスのクラリネット・ソナタ第一番は、流れるようなピアノと、クラリネットの精巧なハーモニーが美しい楽曲だ。観客は、プロの卓越した演奏技術と、美しい音色に魅了された。

コンサート後、金子さんは「クラリネット・ソナタ第一番」を観客の前で演奏するのは今回が初めて。音の響きが良い筑波大学のホールで演奏できてうれし」と話した。来場した安藤泰斗さん(応理1年)は「プロが吹くクラリネットの音色は柔らかく素晴らしい」と語った。

## 卒業生も落語披露

### 即興織り交ぜ観客沸かせる



「鮫講釈」を演じる「立川志のぼん」さん  
(1月17日、ノバホールで)

落語研究会創立40周年記念ライブ「お笑い科学万博15」が1月17日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。今回のライブには、同研究会の卒業生も参加。さまざまな演目を披露し、観客を沸かせた。

志のぼんさんは「落語研究員が集まり、楽しかった。40年の伝統をこれからも引き継いでいってほしい」と話した。

会長の小林陽一郎さん(化学2年)は「先輩たちの落語が自分たちの目標の落語が上達させて、先輩たちに近づきたい」と話した。(山野辺拓実、写真も12面に関連写真)

## 「バベルの塔」奏でる 他団体との共演も

筑波大学吹奏楽団の第72回定期演奏会が、昨年12月12日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれ、県内外から約600人が訪れた。

第1部ではR・シエリガー作曲「シンフォニア・ノビリッシマ」や、広瀬勇人作曲「バベルの塔」など3曲を演奏。「バベルの塔」は旧約聖書の「創世記」に描かれた神話をモチーフにした、全7楽章からなる楽曲で、塔を建設する場面や人々の混乱、神の怒りなどが描かれている。さまざま楽器が主旋律を代わる代わる演奏する同楽曲を、指揮者の佐藤拓人さん(地球3年)は緻密にコントロールし、観客を神話の世界に引き込んだ。

第2部では同演奏会の目玉である、アカペラサークルDoo-Wopと舞踏研究会とのコラボレーション

演奏が行われた。楽曲はD・エリントン作曲「スウィングしなけりや意味がない」。真紅のドレスを着た舞踏研究会の会員が、Doo-Wopのバックコーラスと吹奏楽団の演奏に合わせて華麗なステップを披露。曲中では吹奏楽団員によるソロ演奏もあり、会場からは何度も拍手が湧いた。

第3部ではJ・バーンズ作曲「交響曲第3番」を演奏した。同楽曲はバーンズが最愛の娘ナタリーを亡くした直後に作曲されたもので、バーンズの悲しみや怒り、娘との最期の会話、そして息子を授かった喜びが表現されている。第3楽章ではソロのかけあいでも娘の最期の会話が表現されており、涙を流して聴き入る観客もいた。

(原啓一郎)

### 40バンドが熱演

軽音楽サークル、筑波音楽協会のクリスマスコンサートが昨年12月27―28日に1E棟で開かれた。同サークルに所属する40組のバンドが幅広いジャンルの楽曲を披露し、観客は大いに盛り上がった。

筑波音楽協会は開学と同時に発足した、歴史ある軽音楽サークルの一つ。100人超の部員が自由にバンドを組み、ロック、パンク、アニメソングなどジャンルを問わずライブ活動を行っている。

初日の27日には、午前11時から約8時間、ほぼ休みなくバンドが登場。アメリカのヘビーメタルバンド「メタリカ」やイギリスのロックバンド「ブラック・サバス」、Jポップアーティスト「いきものがかり」など、さまざまなバンドのカバー曲を演奏した。

会長の鈴木宗亮さん(社会学2年)は「演奏する側も来場者側も楽しめるライブを作るため、日々の練習に励み、会場の設営も工夫している。より多くの人に聴きにきてほしい」と話した。(森脇慎)

## DEAフレックス総合評価法

### 社会システム分析への適用

橋本昭洋 著



著者は筑波大学  
社会系教授。A5  
判並製、約200  
頁。1月20日刊行。  
2900円＋税。

公共機関や民間企業の効率性の分析評価のみならず社会システム分析全般にも有効なDEA(包絡分析)のガイドブック。専門研究の成果を反映しながら、基本的な考え、評価手法、その適用の仕方を、身近な事例を用いて平易に解説する。包絡分析法では、複数項目での総合評価、多様性を生かした評価、改善値の定量的な把握など、これまでの比率分析、回帰分析などでは見落とされがちであった、新たな分析結果を得ることができ、教育・研究の現場でもある大学出版会ならではの視点から、より分かりやすい構成と記述を目標した。



著者は筑波大シ  
テム情報系教授。A  
5判並製、約160  
頁。1月20日刊行。  
2900円＋税。

## 「笑み」に圧倒される公演

同3年)の3人の女性が、「クックロビン」という「誰か」を殺し、立ち尽くすシーンから始まる。動揺する登場人物ハエと「スズメ」に対し、「サカナ」は平然と「死体と目撃者と犯人のいない事件にしよう」と提案。「クックロビン」は殺されなかった」と、スズメとハエに復唱させた。

場面は変わり、スーツを着た大柄な刑事・K(土田彬仁＝知識図書2年)がカセットテープを手に現れる。テープには冒頭の3人の、殺人をほめめかす会話が録音されてい



た。Kは彼女たちのもとを訪れ、じつと知っていた。「誰か」を殺したの「知ってます? クックロビンって。低く、芯の通った

声でじわじわと3人を追い詰めた。公演を通して観客を圧倒したのは、役者の「笑み」だった。サカナが死体の隠匿を提案した時の、一点の曇りもない笑み。Kが3人を追い詰める時に浮かべた、自信に満ちた笑顔。そしてふとした拍子で、笑顔は真顔に変わる。「表情、感情に力を入れた」と目生が語る通り、観客に「笑み」が次々と襲いかかった。更に「笑み」は、役者たちの立ち回りで引き立つ。サカナの場合、観客に笑顔を見せた後、ゆっくりと背を向け、2、3歩舞台の奥へ歩みながら、軽やかな声色でセリ

フを口にする。だがピタリと歩みを止め、ゆっくりと振り返ると、先程の笑顔はどこにも無い。公演の要所で使われたこの動きが、笑みを更に不気味に、深く仕立てあげる。照明や衣装にもこだわりの見える。赤、青、緑の3色の照明は、それぞれスズメ、サカナ、ハエの3人のイメージカラーに合わせた。衣装にも性格を反映させた。怒りっぽいスズメは赤のセーター。内気なハエは緑のスカート。そしてサカナは鱗をイメージさせるひし形模様の青いタイツ。舞台は監獄を彷彿とさせる格子模様仕上げ、息苦しさを感じ出した。

さて、「クックロビン」とは何者だろう。その正体は観客の想像に委ねられた。百年は「形容しがたい誰かかもしれないし、愛する誰かかもしれない」と語る。一方土田は「3人はクックロビンのためなら何でもするよ。自分を犠牲にして、何でもこ突き放す。クックロビンの正体は、永遠に役者の「笑み」の中にあるのだろうか。それとも……?」

公演は今回限りだが、クックロビンの正体を突き止めるべく、何度も舞台上に足を運びたい。(原啓一郎＝社会学類4年、イラスト・姉崎信二＝心理学類2年)

## 筑波大学 出版会

近刊案内

### 筑波山から学ぶ

―「とき」を想像・創造する

前川啓治 編

筑波山の歴史、民俗、経済、地域づくりについて具体的に紹介する。神代から現代まで続く筑波山の存在と人々の山に対する思いで形作られた「環筑波文化圏」という視点から、筑波山の過去と未来を想像してみてはどうか。

万葉集に筑波山を詠んだ歌が25首も収録されていることから分かるように、筑波大学周辺の地域では古くから文化が育まれてきた。現在、筑波山に関する文化を再興する「筑波山ルネサンス」という取り組みが行われており、周辺地域ではジオパーク構想も進む。

本書カバー裏には、筑波山を訪ねる人向けに「筑波山麓フットパス・マップ」を掲載。マップを手に、各章で取り上げている世界を思い浮かべながら古い小道を巡れば、時間を超えた空間を体験できるだろう。

編者は筑波大学  
社会系教授。A5  
判並製、約200  
頁。1月20日刊行。  
2900円＋税。

公共機関や民間企業の効率性の分析評価のみならず社会システム分析全般にも有効なDEA(包絡分析)のガイドブック。専門研究の成果を反映しながら、基本的な考え、評価手法、その適用の仕方を、身近な事例を用いて平易に解説する。包絡分析法では、複数項目での総合評価、多様性を生かした評価、改善値の定量的な把握など、これまでの比率分析、回帰分析などでは見落とされがちであった、新たな分析結果を得ることができ、教育・研究の現場でもある大学出版会ならではの視点から、より分かりやすい構成と記述を目標した。

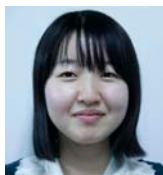
著者は筑波大シ  
テム情報系教授。A  
5判並製、約160  
頁。1月20日刊行。  
2900円＋税。

著者は筑波大シ  
テム情報系教授。A  
5判並製、約160  
頁。1月20日刊行。  
2900円＋税。

著者は筑波大シ  
テム情報系教授。A  
5判並製、約160  
頁。1月20日刊行。  
2900円＋税。



## 記者の声



倉沢美紀

4 月から社会人になるが、頭が痛いことがある。奨学金返済だ。私の場合、公的な奨学金事業を行う日本学生支援機構から 4 年間、240 万円を給付されたがこれに 0.2% の利息を加えた額を約 15 年で返さなければならぬ。日本の場合、他の先進国に比べ返済義務のない公的奨学金の数は少ない。文部科学省の有識者会議は昨年、返済義務のない公的な奨学金の創設

を検討すべきだと提言したが、後輩のためにも一刻も早いその実現を望みたい。

科学省所管の日本学生支援機構によるものだ。平成 24 年度は約 132 万人が平均で月約 3 万円の給付を受けている。すべてに返済義務があり、無利子と有利子の 2 種類に分かれている。その他にも地方公共団体や公益法人による奨学金があり、日本円に

設けていないのは先進国の中でも「異例」だという。比較のために、奨学金制度の充実しているアメリカの例を取り上げた。アメリカでは連邦政府による国内最大規模の奨学金として「連邦ペル奨学金」があり、日本円に

## 奨学金の返済 大きな負担

## 海外を例に早急な改革を

なものと民間の団体や個別の大学が用意するものがあり、日本では学部生の約 5 割にあたる約 150 万人が給付を受けている。

金があるが、平成 22 年度ではこれらの給付を受けた学生数は約 6 万人、また返済義務がない制度の割合は約 4 割にとどまっている。

に、急いその問題を顕在化させるといふものである。東日本大震災では、近いうち、より顕著になると思われる人口減少や地域の過疎化といった現象が前のめりした形で

公的な奨学金の中で受給者が最も多いのが文部

して月約 3 万円がもらえうが、返済義務がない。昨年の受給者数は約 920 万人で、全学部生の約 38% を占める。これを日本に単純に当てはめれば、奨学金全受給者の約 6 倍が、返済義務のない

に、彼がある自治体で大きな移転地を一つだけ計画したところ、個別の地区要望を無視しているとの批判を受けた。しかし当初の移転希望者の多くは自力更生し、その数は減っていく。このため、小さな地区別移転地はその事業性を無くしてしま

## 筑波時評

早いもので、阪神・淡路大震災から今年で 20 年、東日本大震災からも

戸の経験から東日本大震災の復興を考える」をテーマに執筆依頼をいた

の場所では発生する可能性のある問題を早送りし、急いその問題を顕在化させるといふものである。東日本大震災では、近いうち、より顕著になると思われる人口減少や地域の過疎化といった現象が前のめりした形で

## 震災で顕在化する問題も

## 復興プランの事前作成を

た東日本大震災とでは、全く同列に論じられないというのがまず出発点である。

で発生している。一方、神戸の場合は、それまで海外との価格差があっても何とかキープしていた

復興計画は実際には動かない。

社会工學類の卒業生が実際に東北で専門家として関わったケースは示唆的である。多くの自治体は各被災地区の希望に添い、それぞれの地区内で被災者を収容できる小さな山側移転を計画した。

### 谷口 守 教授（都市計画）



シス情系・教授。京都大学大学院工学研究科指導認定退学。岡山大学環境理工学部教授などを経て 2009 年より現職。著書に『入門 都市計画』（森北出版）など。

一方、場所や状況に関わらず、明らかに大震災への復興を考える上で共通と思われることもある。それは、大震災がそ

に、彼がある自治体で大きな移転地を一つだけ計画したところ、個別の地区要望を無視しているとの批判を受けた。しかし当初の移転希望者の多くは自力更生し、その数は減っていく。このため、小さな地区別移転地はその事業性を無くしてしま

## 反射鏡

### 私の周りの「差別」

昨年、日本では特定の民族への憎悪を示すヘイトスピーチが問題になった。また最近フランスで起きた事件では、宗教による差別が議論されている。筑波大生が考える「差別」とは何か。外国語センターと中央図書館の周辺で聞いた。（油布知夏Ⅱ人文学類 2 年、佐々木優Ⅱ知識情報・図書館学類 3 年）

【数学 1 年・男性】

塾や飲食店のバイトで、女性だけ髪を染めたり、ピアスをつけても良いという話を友人からよく聞くが、少し納得がいかない。

【生物 1 年・女性】

高校時代、電車ですう話を友人からよく聞くが、少し納得がいかない。

【文 1 年・女性】

体育専門学群の学生が宿舎の共有スペースに物を置くことがあった。近くでしゃべっていた年配の女性たちが、それがダメだと言った。誰かからうるさい人がいる。誰でも置き忘れ

ることはあるのに、そんな偏見を持っているのはおかしい。

### 年賀状書きましたか？

近年、新年のあいさつとして年賀状を出さない若者が増えている。JNN データバンクによると、2013 年に「年賀状を出さない」と答えた 20 代の男女は 49.4% と、2004 年の 28.3% から大きく増加した。今年、筑波大生は年賀状を送ったのか。中央図書館周辺で聞いた。（関根岳Ⅱ社会学類 3 年、深作歩美Ⅱ生物資源学類 1 年）

【化学 2 年・女性】

年賀状を送る約束をしていた友人へ、市販の年賀状に言葉添えて送った。

【比文 4 年・女性】

面倒だから送っていない。3 年間程年賀状を出していない。最近フェイスブックやツイッターなどの SNS が年賀状の代わりになっているが、はがきで年賀状を送る伝統が消えていくのは悲しい。

【生資 2 年・女性】

交換する約束をしていたので、高校と大学の友人に送った。手書きの絵とメッセージを書いた。

男女の人数がほぼ等しい部活に所属しているが、雑用が男性に回っていることに気がついた。自分がある哲学に詳しくても「社会の役に立たない」と言われる。大学や学問に優秀は無いと思うので、そういうことは言わないでほしい。

【生物 1 年・女性】

他大学の友達から「筑波大は田舎の大学だから大した研究はやっていない」と言われたことがある。また、自分が学んでいる哲学に詳しくても「社会の役に立たない」と言われる。大学や学問に優秀は無いと思うので、そういうことは言わないでほしい。

【物理 1 年・男性】

大田舎の大学だから大した研究はやっていない」と言われたことがある。また、自分が学んでいる哲学に詳しくても「社会の役に立たない」と言われる。大学や学問に優秀は無いと思うので、そういうことは言わないでほしい。

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

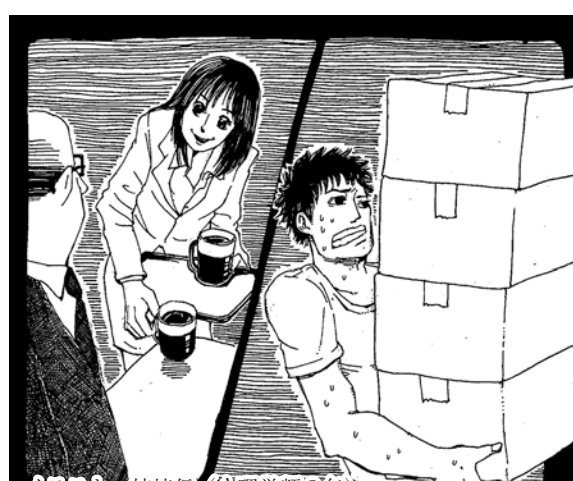
【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】

【文 2 年・女性】



イラスト＝姉崎信（心理学類 2 年）

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】

【心理 3 年・女性】



竹中佳彦教授

ち、寶石に負けない美しい羽を持っている。

カワセミというと、溪流の鳥のイメージだが、実は私たちの身近なところにもいる。写真のカワセミは、筑波大学3K棟近くの天の川で撮影された個体。筆者も先日、3A棟近くでカワセミを目撃した。カワセミが必要としているのは、人間が見て綺麗な川ではなく、餌となる魚が豊富な水

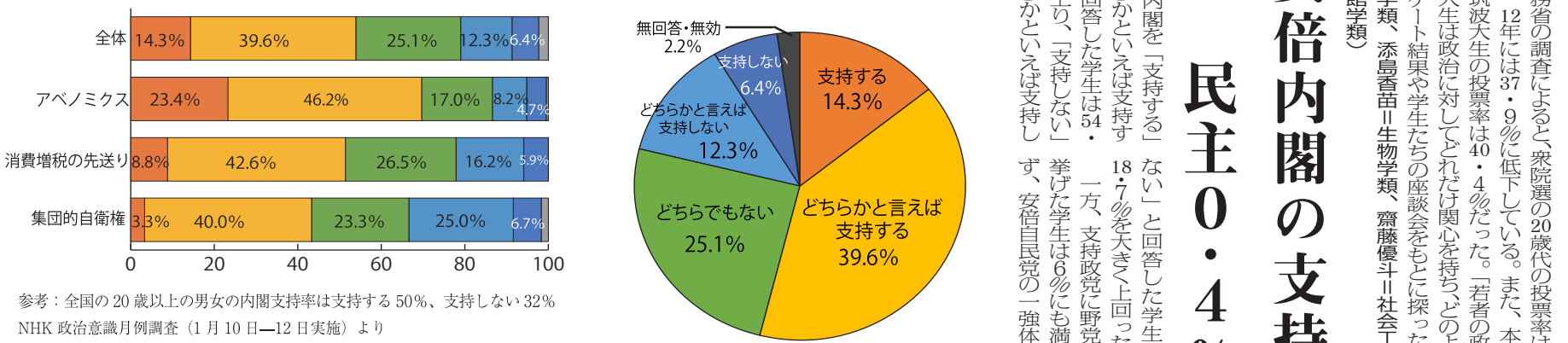


筑波大生

「支持政党なし」77%

衆院選の争点と内閣支持率

安倍内閣支持率

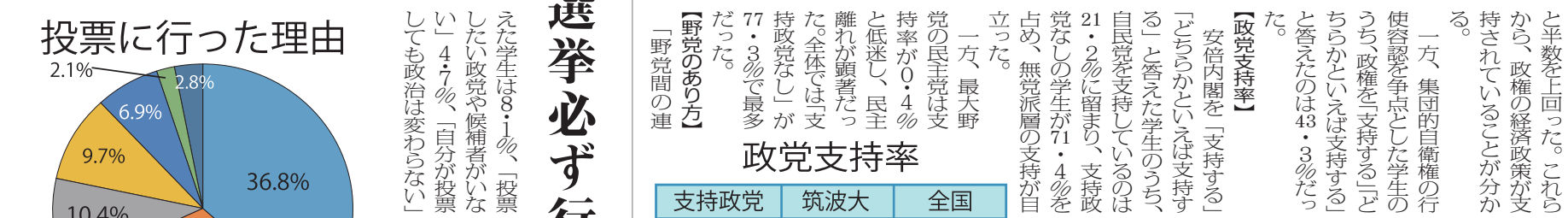


総務省の調査によると、衆院選の20歳代の投票率は1967年には66.7%だったが、12年には37.9%に低下している。また、本紙の調査では昨年12月の衆院選で筑波大生の投票率は40.4%だった。「若者の政治離れ」が問題視される中、筑波大生は政治に対してどれだけ関心を持ち、どのような意見を抱いているのか。アンケート結果や学生たちの座談会をもとに探った。（林健太郎、山野辺拓実、社会学類、添島香苗、生物学類、齋藤優斗、社会学類、佐々木優二、知識情報・図書館学類）

安倍内閣を「支持する」「ない」と回答した学生の「どちらかといえば支持する」18.7%を大きく上回った。

【衆院選の争点】「アベノミクスの是非」に答えた学生は37.7%と最も多く、「消費増税の先送りの是非」が15.0%、集団的自衛権の行使容認が13.2%と続いた。争点をアベノミクスと答えた学生のうち政権を「支持する」「どちらかと言えば支持する」と答えた学生は69.6%に達した。また「消費増税の先送り」と答えた学生は「支持する」「どちらかといえば支持する」が51.5%だった。

【野党のあり方】「野党間の連携」が36.8%、「何も望み」が15.2%、「野党の立場を明確にする」が11.2%だった。



【投票に行理由】「国民の義務だから」が36.8%と最も多く、「政治への意思表示」が31.3%と次いだ。「国政が少しでも良くなってほしいから」が10.4%、「家族や知人に勧められたから」が9.7%、「支持している政党や候補者がいたから」が6.9%と多くの意見が並んだ。

一方、投票に行かなかった理由は「つくば市に住民票がないから」45.5%、「投票に行く時間がなかったから」28.9%だった。「政治に興味が無いから」と答えた学生は8.1%、「投票したい政党や候補者がいない」4.7%、「自分が投票しても政治は変わらない」1.1%だった。

【選挙への関心】「選挙権を持つことは選挙に行くべきだと思うか」という問いでは、65.2%が「必ず行くべき」と答えた。また、「選挙権がなかったら投票に行かない」と答えた学生は3.3%と、政治への関心の薄さも目立った。「投票に行くべき」と答えた学生は8.1%、「投票したい政党や候補者がいない」4.7%、「自分が投票しても政治は変わらない」1.1%だった。

【選挙への重要性】「選挙権を持つことは選挙に行くべきだと思うか」という問いでは、65.2%が「必ず行くべき」と答えた。また、「選挙権がなかったら投票に行かない」と答えた学生は3.3%と、政治への関心の薄さも目立った。「投票に行くべき」と答えた学生は8.1%、「投票したい政党や候補者がいない」4.7%、「自分が投票しても政治は変わらない」1.1%だった。

【選挙への関心】「選挙権を持つことは選挙に行くべきだと思うか」という問いでは、65.2%が「必ず行くべき」と答えた。また、「選挙権がなかったら投票に行かない」と答えた学生は3.3%と、政治への関心の薄さも目立った。「投票に行くべき」と答えた学生は8.1%、「投票したい政党や候補者がいない」4.7%、「自分が投票しても政治は変わらない」1.1%だった。

筑波大生は、政治に対して具体的などのような意見を抱いているのだろうか。アンケート調査の際に追加取材への協力を申し出てくれた酒井万由子さん（日経2年）、今井卓さん（社会学3年）、中川侑さん（知識図書2年）と本紙記者で座談会を行った。

――昨年末の総選挙には行きましたか。  
今井 行きました。成人して初めての国政選挙で、権利を行使しないのはもったいないです。  
中川 私も行きました。政治に自分の考えを反映するチャンスを使ってみようと思いました。  
酒井 住民票が地元にある、不在者投票制度を利用しようとも思いましたが、手続きがややこしかったので、投票しませんでした。  
今井 私は不在者投票制度を利用しましたが、やはり手続きは面倒でした。  
――選挙に必ず行くべきだと思いますか。  
今井 「権利」なので個人の自由だと思います。  
中川 民主主義の国なのだから投票率100%が理想。白票を入れるなど「意見が無い」という意見の示し方もあります。  
――若者の投票率は低下傾向にあります。  
酒井 投票しないという行為には何らかの理由があるはず。一方的に批判するのは理不尽です。  
中川 大学生は住民票が現住所にないことが多く、投票するのに手間がかかりますしね。  
酒井 最近の若者は生活にそこまですべてを感じていません。不満があっても昔のように国家や政治に訴えようとする人は少ないのではないのでしょうか。  
――「誰に投票しても同じだから投票しない」という意見もあります。  
酒井 候補者それぞれが異なるマニフェストを持っているので、誰に投票しても同じとは思いません。  
中川 候補者個人の考えよりも所属政党の方針が重視される傾向があるので、そういう意見が出るのでは。同じ党の中にも、違う考えの人はいるはずです。  
酒井 私も同感です。メディアは政党中心の報道になっていると思います。

「未投票 一方的批判は理不尽」

政治意識について語る今井さん

今井 確かに、候補者個人の情報やマニフェストなどは、テレビだと選挙当日の特番でしか報道されませんが、ね。

――安倍政権を支持しますか。  
中川 どちらかといえば支持しません。政策自体に反論はありませんが（例えば、特定秘密保護法はきちんと議論されていたか疑問を感じます。与党だけでおこなう議論をして、決議を採ろうとするのは違うのでは。ないでしょうか）。

今井 集団的自衛権は簡単に閣議決定されてしまい、人の意見を知りたい時はSNSやネットを見たり、話を聞くなどしています。安倍政権を支持します。野党は頼りないですし、ほかに政権を担う適任の政党がないですから。

――今後、若者が政治に興味を持つには何が必要でしょうか。  
酒井 どちらかといえば支持します。多くの問題を全国民が納得するように解決するのは難しい。だから個人のシステムを分かりやすくしてほしいです。  
酒井 親が毎回選挙に行くも仕方ありません。そう考へると、アベノミクスで成果を出している安倍政権はまずまずやっているなという印象です。  
――普段、筑波大生同士で政治の話をするか。  
今井 時々する程度で、政治に対する無力感をなくすべきたと思います。  
中川 自分たちの入れた票が無駄になっていないのが目に見えるようにして、政治に対する無力感をなくすべきたと思います。

酒井 ニュースで話題になった時くらいですが、たまに熱い議論になります。出身地の友人よりは筑波大生のほうが政治に対する関心は高いと思います。  
――政治に関する情報はどこから得ますか。  
今井 衆院選の時はネットやツイッターから得ています。情報収集で一番多く使っているのはネットですが（衆院選時は、情勢を詳しく知るために新聞も読みました）。

酒井 政治の情勢について知りたい時は新聞を使い、人の意見を知りたい時はSNSやネットを見たり、話を聞くなどしています。安倍政権を支持します。野党は頼りないですし、ほかに政権を担う適任の政党がないですから。

――今後、若者が政治に興味を持つには何が必要でしょうか。  
酒井 どちらかといえば支持します。多くの問題を全国民が納得するように解決するのは難しい。だから個人のシステムを分かりやすくしてほしいです。  
酒井 親が毎回選挙に行くも仕方ありません。そう考へると、アベノミクスで成果を出している安倍政権はまずまずやっているなという印象です。  
――普段、筑波大生同士で政治の話をするか。  
今井 時々する程度で、政治に対する無力感をなくすべきたと思います。  
中川 自分たちの入れた票が無駄になっていないのが目に見えるようにして、政治に対する無力感をなくすべきたと思います。



意見を交わす中川さん（左）と酒井さん



グラندスラム東京

永瀬が連覇達成

デザイン大西美雨(社会学類1年)

## 世界選手権に向け弾み

世界のトップ選手が優勝を争うグラندスラム東京2014が、昨年12月5〜7日、東京体育館(東京都渋谷区)で行われ、男子81kg級で永瀬貴規(体専3年)が連覇を達成した。この大会の81kg級での連覇は史上初の快挙。準決勝で昨年8月の世界選手権の覇者、アタンディル・チリキシビリ(グルジア)に一本勝ちするなど、世界ランク上位の強豪を次々に倒した。

(新田萌夏II社会学類2年)

永瀬は初戦から三回戦まで全て一本勝ちで駒を進め、準々決勝でロンドン五輪金メダルの金宰範(韓国)と対戦。大内刈りで技ありを奪い、優勢勝ちを収めた。準決勝は世界選手権で敗れたチリキシビリとの対戦。序盤は両者とも譲らず一進一退の攻防が続いたが、試合開始から2分半が



トマに積極的に技を仕掛ける永瀬(12月6日、グラ  
ンドスラム東京の男子81kg級決勝戦で)

ら一分半を過ぎたところでトマに指導が入り、永瀬の優勝が決まった。永瀬は優勝の要因に積極的に技をしかけたことを挙げ、「相手に試合のペースを握られ敗れた世界選手権での反省を生かした」と語った。また、今年の目標については、「世界選手権に優勝すること。リオデジャネイロ五輪に向けて弾みをつけたい」と話した。

## 男女ともに3回戦敗退 プロの壁に阻まれる



【国立代々木競技場第一体育館(東京都渋谷区)などで大西美雨II社会学類1年写真もバスケットボール日本一を決める全日本選手権が1月12日まで行われた。筑波大からは、昨年11月の全日本大学選手権で優勝した男子、同7位の女子ともに出場。だがプロチーム相手に苦戦し、男女とも3回戦で敗退した。

### ■男子

代々木第一体育館で行われた3回戦で、プロリーグNBLの2部リーグで首位を走る東京エクスレレンスと対戦し、78-93で敗れた。第1ピリオド序盤から東



相手にフェイントをかける笹山(1月3日、  
全日本選手権の東京エクスレレンス戦で)

京に先制点を奪われると、立て続けにシュートを決められる苦しい展開に。筑波大も杉浦佑成(体専1年)を中心にゴールを狙ったが、東京の守備を崩すことができない。第2ピリオドに入ると最大18点差をつけられたが、中盤から坂東拓(同4年)が3ポイントシュートを決めるなど巻き返し、39-49で前半を終えた。

第3ピリオドも東京に攻め込まれたが、終盤にキャプテンの笹山貴哉(同4年)が好守から得点を挙げ、さらに終了間際には馬場雄大(同1年)のシュートが決まり、60-67と詰め寄る。だが第4ピリオドに入ると勢いは止まり、立て続けにゴールを奪われ再び突き放された。笹山や山田侑樹(同4年)ら、この大会を最後に引退する4年生が続けざ

る。第3ピリオドも東京に攻め込まれたが、終盤にキャプテンの笹山貴哉(同4年)が好守から得点を挙げ、さらに終了間際には馬場雄大(同1年)のシュートが決まり、60-67と詰め寄る。だが第4ピリオドに入ると勢いは止まり、立て続けにゴールを奪われ再び突き放された。笹山や山田侑樹(同4年)ら、この大会を最後に引退する4年生が続けざ

## 井上が初優勝 長身生かし演技

### 体操

国内外の有力選手が種目で競い合う豊田国際競技大会が、昨年12月13-14日にスカイホール豊田(愛知県豊田市)で行われた。段違い平行棒に出場した井上和佳奈(体専1年)は、3位に終わった前回大会の雪辱を晴らし、初優勝を果たした。

井上は「直前まで練習できないことが多く不安だったが、慎重に演技したことが優勝につながったと思う。今はそれぞれの技の難易度が低いので、この結果

に満足せず、高難度の技を練習していきたい」と今後の抱負を語った。(油布知夏、12面に関連写真)

### 松浦が3連覇

跳躍で強さ発揮

全日本フット競技選手権大会が、昨年12月13-14日に行われた。筑波大からは11人が出場し、女子個人総合で松浦佑希(体専4年)が3連覇を達成し、小出奈実(体育1年)が3位に入賞した。

個人総合は跳躍、斜転直転の3種目で合計点を競



### 顔

184cmの長身と、最高296cmにまで到達する跳躍で、相手のスパイクを強固なブロックで防ぐ。関東大学一部リーグでは一昨年の秋季、昨年の春季と2季続けてブ

184cmの長身と、最高296cmにまで到達する跳躍で、相手のスパイクを強固なブロックで防ぐ。関東大学一部リーグでは一昨年の秋季、昨年の春季と2季続けてブ



女子バレー部 新主将

## 帯川きよら(体専3年)

【監督(体育系・准教授)に誘われ、入学後は未熟だったブロックを猛特訓。以前は相手のスパイクにブロック

【監督(体育系・准教授)に誘われ、入学後は未熟だったブロックを猛特訓。以前は相手のスパイクにブロック

## 情熱胸に高み目指す

だが、苦汁も舐めた。高校2年生の全国大会で、

だが、苦汁も舐めた。高校2年生の全国大会で、

### 記録ファイル

◆女子サッカー 関東女子リーグ入替戦(昨年12月27日、東京国際大学ラウンド1部残留)

◆バドミントン 全日本教

育系学生選手権(昨年12月27-28日、葛飾区総合スポーツセンター体育館)【女子】ワシグルス 漆崎真子(体専4年) 優勝、大久保敦美(同2年) 準優勝、ダブルス 加藤美幸同

1年・柏原みき(同1年) 優勝【男子】Vダアルス 山本皓策(体専4年)・木村健太郎(同4年) 準優

勝

取りすぎた。猛練習したスパイクをこごとく握られるなど、全国トップ校の前ではなす術がなかった。「スパイクもブロックも決まらず、力の差を感じた。同時に、差を埋めるには、

本番を想定した練習を積み重ねるしかない」と努力を続けた。

筑波大学バレー部の中西康二監督(体育系・准教授)に誘われ、入学後は未熟だったブロックを猛特訓。以前は相手のスパイクにブロック

【監督(体育系・准教授)に誘われ、入学後は未熟だったブロックを猛特訓。以前は相手のスパイクにブロック

【監督(体育系・准教授)に誘われ、入学後は未熟だったブロックを猛特訓。以前は相手のスパイクにブロック



# 全国大学選手権決勝 帝京大に敗れ初優勝逃す

【味の素スタジアム(東京都調布市)で山野辺拓実(社会)1年、12面に関連写真】ラグビーの大学日本一を決める全国大学選手権の決勝戦が、1月10日に行われた。初優勝を目指した筑波大は、史上初の大会6連覇をかけた帝京大と対戦。7-50で敗れたが、2年ぶりの2度目の準優勝を果たした。昨年の秋は、関東大学対抗戦で開幕4連敗を喫する苦しい立ち上がりだったが、主力選手がけがから復帰すると勢いが回復。準決勝で東海大に逆転勝利するなど、4連勝で決勝まで勝ち上がった。

## 後半意地のトライ



後半7分、トライを決める福岡 (1月10日、帝京大戦で=平嶋健人撮影)

国立競技場の改修で、味の素スタジアムに舞台を移した決勝戦。絶対王者・帝京大の磐石の試合運びに、筑波大の持ち味である「粘り」は封じられた。前半7分、自陣ゴール前でスクラムを組んだ筑波大だが、力で勝る帝京大に押し戻されボールを奪われると、そのままトライを決められた。21分にも左サイドを突破されトライされる。続く25分にも追加点を許した。筑波大も反撃を狙ったが、帝京大の堅い守りに阻まれ得点を奪うことができず、前半は0-21で折り返した。

後半序盤、筑波大がペーシングをつかむ。帝京大の反則が重なりゴール前まで迫ると、7分に左ウィングの福岡堅樹(情科3年)が混戦を抜け出しトライを奪う。後半序盤、筑波大がペーシングをつかむ。帝京大の反則が重なりゴール前まで迫ると、7分に左ウィングの福岡堅樹(情科3年)が混戦を抜け出しトライを奪う。

古川拓生監督(体育系・准教授)は「筑波大の選手より、体が大きい帝京大の選手に、しっかりぶつかりにいった。優勝はできなかったが、1年間戦い抜いた部員全員を誇りに思う」と話した。ケガで前半23分に交代した左センターの山下真七郎主将(体育4年)は「敗れはしたが、自分たちは足りないところが見えた。来年こそは成長した後輩たちが成果を見せるだろう」と悔し涙を浮かべた。

## スタンドから最後まで声援 「来年こそ日本一に」

### 観客の声



(上) ブルーの旗を振り声援を送る観客 = 田中開撮影  
(下) 試合後、トロフィーを手に出場選手をねぎらう部員たち = 森脇慎撮影

「味、素スタジアムで鈴木拓也(人文3年)、田中開(教育1年)「来年こそは日本一の筑波が見たい」。2年ぶりの帝京との決勝。初優勝がかかる注目の一戦に、大勢の筑波大ファンが味の素スタジアムに詰めかけた。結果は7-50と優勝は逃したものの、観客は最後まで応援を続けた。

主将の山下真七郎(体育4年)など、友人が数人出陣していた室内浩紀さん(同4年)は、終始最前列から声援を送った。「今日は思ったように試合を進められなかったかも知れないが、ここまで勝ち進んだことに本当に感動した。心か

点差が開いても最後まで諦めずに食らい付く姿勢に胸が熱くなった」と、優勝には届かなかったが、健闘をたたえる声が目立った。卒業生も多く駆けつけ、物理学類の卒業生で東京代表の福岡堅樹(情科3年)を中心に一矢報いる活躍をしてほしい。

また社会学類の卒業生で都内在住の林穂(31)は「後半の立ち上がりや福岡のトライなど、力に差がある中でよく戦い続けたと思う。母校の後輩が日本一をかけて戦っている姿を見ると、エネルギーをもらえる。来年こそは日本一になってほしい」と、来年以降の躍進に期待を寄せた。

## 準決勝 残り10分で劇的逆転

【秩父宮ラグビー場(東京都港区)で山野辺拓実(社会)1年、写真も1月2日に行われた東海大との準決勝。残り10分で3-16と突き放された状況から逆転し、17-16で勝利した。劇的な幕切れにスタジアムは熱狂に包まれた。

前半、筑波大は東海大の守備に苦戦。キックオフ直後から東海大のゴール前でラインを進めるも、得点できない。逆にミスから東海大にボールを奪われると、自陣ゴール前まで一気にラインを押し込まれ、9分にドロップゴールで3点を先制された。31分には守備の薄い左サイドにボールを運ばれトライを許し、40分にも失点。後半に入り、7分にペナルティゴールをフルバックの山下(体育



タックルを受けつつも果敢に攻める山下 (1月2日、東海大戦で)

古川拓生監督(体育系・准教授)は「選手一人一人がしっかりと切り切ってくれた。終盤の10分だけではない、80分通して素晴らしい集中力を発揮したことで、最後の最後でチャンスをつかめた」と選手をねぎらった。ゲームキャプテンの左フランカー水上彰太(体育4年)は「攻める」と選手全員が意志統一できたから逆転できた」と話した。

### 記者の目

筑波大が初めて決勝に進出した一昨年と、今年の全国大学選手権の流れはよく似ている。両年も準決勝の東海大戦で試合終了間際に逆転勝利し、決勝では帝京大に敗戦。だが、中身は異なる。その違いを古川拓生監督(体育系・准教授)は「勢い」だと語る。

「一昨年は勢いで勝ち進んでいた。対抗戦1位、大学選手権決勝進出と創部史上初の快挙が続いた。決勝の舞台でも、当時も圧倒的な力を誇っていた帝京大に、試合を重ねる中で生まれた勢いで挑んでいた。」

## チームの「勢い」足りず苦戦 サポーターと共に悲願果たせ

一方「今年は実力で勝ち取った決勝進出だった」と古川監督は胸を張る。対抗戦では主力選手の負傷離脱もあり、初戦から4連敗と苦しんだ。だがそれがあって功を奏した。本来は試合に出られない選手が出場して経験を積み、チーム全体の実力の底上げに成功した。また、自分たちのプレーを振り返り、タックルなど相手との「接点」の練習を徹底的に行い、

は、大学選手権での4連勝という形で表れた。だが決勝は完敗に終わった。皮肉にも、今年の帝京大に比べ筑波大に足りなかったのは、一昨年にはあった「勢い」だった。

帝京大の勢いを生んだのは、自分たちの確固たる自信だ。もちろん筑波大の選手もプレーに自信を持っていたが、「それ以上に帝京大の選手は全てで『負けたくない』という自信を持ち、挑戦してほしい。優勝に必要なのは選手一人一人の力ではない。より一層のサポーターの応援が必要だ。」

一昨年の決勝戦。内田啓介(現パソニックワイルドナイツ)が「声援に、支えられていると感じた」と語ったように、応援の力は絶大だ。ラグビー部も決勝の応援バスツアーを企画。旗などのグッズを配り、応援を促した。

だがその結束力は帝京大に比べ弱く見えた。筑波大側の応援スタンドは2カ所に分かれており、応援がまとまらない。後半7分に左ウィング福岡

堅樹(情科3年)がトライを決めた直後「筑波コール」が響き渡った時も、それにかぶせるような「帝京コール」にかき消されてしまった。

今回の決勝戦をスタジアムで観戦した人は約1万2千人で、サンケイスポーツによると過去の決勝戦の中でも最少。空席が目立つスタジアムが「筑波ブルー」で埋まれば、選手にとって何よりの支えとなる。

来年こそは、全国の頂点に立つというラグビー部の悲願を、学生に限らず教職員、保護者、卒業生などの「オール筑波」で見届けたい。

(山野辺拓実)



## 円滑なグループ学習目指す 「主体的な学び支えたい」



東京電機大の  
試み

「教員は学生に知識を与えるだけでなく、学生の学びを支援していくべきだ」。東京電機大学（東京都足立区）で木村敦・同大助教（心理学）が担当する「ITコミュニケーションと社会」という授業は、この立場に立つて展開されている。学生からの評判も良く、この授業について報告した自身の論文も高い評価を得ている。

「ITコミュニケーションと社会」は、IT技術を



「ITコミュニケーションと社会」でグループ発表を行う学生＝木村敦助教提供

用いた社会問題の解決策や、ITの問題点などについて考える授業。昨年度は31人が受講した。授業の特徴は、講義と問題解決型学習（Problem Based Learning）を組み合わせている点にある。学生が複数のグループに分かれ、「仮想通員の現状と課題」など、明確な答えの出ない問いについて、2～3人のグループ内で議論。解決策を考える新たな授業の形態だ。教員が一方的に講義する従来の授業に比べ、学生が主体的に学習できるため、導入する大学が増えてきた。木村助教は、11年の科目開講時から授業にPBLを取り入れている。

だが、学生間で学習意欲に差がある場合や、学生がPBLに慣れない場合、グループ学習が計画通りに進まず、PBLの成果が出にくい可能性がある。こうした事態を防ぐため、木村助教は「グループのメンバー同士で学習状況などを共有すること」を考案。グループのメンバーが、どれだけ学習意欲を持ち、どの程度学習しているかをグループ内で把握すれば、発表に向けた計画や準備もスムーズに行えるからだ。木村助教は表計算ソフトと、ネット上に情報を保管できるサービス「クラウドストレージ」を利用。各グループのメンバーは、これに自分の学習意欲や学習量などを5段階評価でそれぞれ毎週入力して、メンバー全員の学習時間などをグラフで表示、そのデータを教員とグループのメンバーが確認できるシステムを制作した。「学生の主体的な学習を妨げないよう、あくまでグループ学習を円滑化する支援システムを目指した」と木村助教は語る。

システム導入の結果は数値にはっきりと現れた。このシステムを導入した13年、学生が数値で入力した学習意欲の平均値は授業が進むにつれて上昇。グループ発表後の学生アンケートでも、「グループで高い評価を得ている」。

「高校までとは違い、大学は教員の言われるままに『学習』する場ではなく、学生が主体的に学ぶ『学習』の場だ。筑波大学の清水一彦副学長（教育学）は強調する。教員はPBLの

ような新しい授業モデルを使うなど、教え方を工夫して、授業を受けた学生の学び成果を同一にする責任がある。教員が学生の『学修支援者』となることが重要だ」

本紙調査によると、大学生の約9割が授業中にスマホを使い、うち約7割が授業に無関係の用途で使っていた。「スマホを使わなくてもいいような面白い授業をしてほしい」と話す学生が訪れた。

イベントは2部構成で行われた。前半には、慶義塾大学名誉教授で日本フランス語教育学会会長の古石篤子氏と、東京ドイッ文化センター・コーディネーターのヒレスハイム・ヤン氏の講演が行われた。

後半は、筑波大生と卒業生が、第二外国語として学習したドイツ語やスペイン語、フランス語など6つの言語の魅力について発表。大学での授業内容や、その言語が使われている国についてまとめたスライドを使い、外国語学習の楽しさを伝えた。

古石氏は、「EU各国の学生は、2つの外国語を学ぶのが当たり前。しかし、日本では英語を学ぶことの意義はあまり強調され、第二外国語を学ぶことの重要性が高まっている。（学生には）英語のほかにもう一つ外国語を学び、世界で活躍できる力をつけてほしい」と語った。

実行責任者の一人である小松祐子准教授（人社会）は、「複数の言語を学べば、多様な視点から世界を見ることができる。また言語能力には共通した部分があるので、第二外国語を学ぶことは既習の言語の上達にも役立つ。今後もイベントを開催し、第二外国語を学ぶことの大切さを学生に伝えていきたい」と語った。（廣岡里穂 人文学類1年）

## 相次ぐ学生の盗難被害 「犯罪が起きない環境を」

筑波大生の財布や現金、自転車の盗難被害が続いている。学生生活課は「犯罪が起きない環境を作ることが大切だ。防犯意識を高めてほしい」と注意を呼びかけている。

現金の盗難では、昨年12月17日、学生が中央図書館2階の学習スペースの机に財布を置いたまま近くのソファで仮眠していたところ、財布から現金2万円が盗まれた。

また体芸エリアの食堂では、今年1月14日に現金の

盗難が発生。財布を机に置き忘れた学生が支援室に問い合わせたところ、財布は見つかったが、中に入っていた現金約3万円が盗まれていた。このほかにも紛失したり、置き忘れたままの財布から現金が抜き取

られる例が相次いでおり、4万円を盗まれた学生もいるという。

一方、自転車盗難は12月中に学内で7件、春日地区のアパートで1件発生。うち2件が無施錠だった。つくば中央署は「無施錠の自転車の盗難は容易で、犯人に狙われやすい。安全な社会を作るため、学生一人ひとりが意識してほしい」と指摘した。

（栗山菜帆子）

## 卒業する学生の自転車 今年も回収し販売へ

筑波大学は、卒業する学生の自転車を回収・整備し、新入生に販売する取り組みを今年以降も続けていく。学生が卒業に際し学内に放置している自転車を減らすために、昨年は約100台の自転車を回収。うち販売したのは、壊れていて使えない物を除いた約10台。学生生活課は「放置自転車を減らしリサイクル自転車を増やしたい」と話し、学生に協力を求めている。

同課では昨年、回収した自転車を、学生宿舎入居時に各宿舎の共用棟で一台3000～5000円で販売した。販売した自転車は自転車安全整備士が整備、道路交通法令に基づく「安

全な自転車」であることを確認し、TSマークを貼って安全性を保証している。

同課は今年も2月上旬と卒業式の前後に、大会館で自転車を回収する予定だ。回収数が今後増えれば、短期留学生などに自転車を貸し出すことも検討中だという。

（栗山菜帆子）



双眼鏡で野鳥を観察する会員たち（12月28日、宝篋山で）

### 野生動物研究会

## 生物の素晴らしさ知る

1年を通して幅広い活動ができるのが同サークルの魅力だ。例えば、毎年7月にはホタルが多く

長期休暇中には合宿に行く。行き先は北海道から奄美大島まで幅広い。現地では4人程度のグループに分かれ、つこ

は、昨年度は「生きた動物の素晴らしさ」をテーマに、生きた動物を見つめる彼らの瞳から輝きが失せることはない。彼らは今日も生き物を追いかける。（深作歩美 生物学資源学類1年、写真も）



完成ー！





# ノーベル財団理事長講演 「基礎研究 軽視しない」

ノーベル財団理事長の講演は、基礎研究の重要性を強調し、受賞者の多岐にわたる分野での活躍を称賛した。特に、基礎研究が長期的な発展の基盤となることを指摘し、社会全体でその価値を認識する必要があると訴えた。

一方、来場者の「日本では論文不正が問題になっていて、世界から日本の科学は見えなくなっている」という声も聞かれた。理事長は「不正は世界中にある」と返答し、誠実な研究の重要性を再強調した。

賞への批判  
賞には①死者は受賞できない②受賞までの期間が長すぎる③数少ない賞がある、だが、④ノーベルの遺言に従ったもので、変更できない。また⑤については、もし死者の受賞を認めれば候補者が莫大に数になり選定も難しくなるだろう。

基金の財政  
ノーベルの遺産は彼の死後減り続けたが、財団は60年代以降、株式投資なども行い、利益を得てきた。90年代は好況でもあり(将来の運用に)樂觀だったが、2000年代になると注目を払ってきたと思う。

選考に細心の配慮  
選考には細心の配慮が払われている。特に、受賞者の多岐にわたる分野での活躍を称賛し、基礎研究の重要性を強調した。

# 病院をプラネタリウムに 星で心のケアを

「夢の中にいるみたい」とつぶやく小児がんと戦う少年。「あの星座、知ってる!」と歓声を上げる車椅子や年配の入院患者たち。昨年3月、筑波大学附属病院の食堂で行われたイベント「星の降る夜」では、スクリーンに皆が見入っていた。



病院の食堂に作られた手作りのプラネタリウムに見入る参加者たち = UNICO 提供

星を見られるよう、室内用プラネタリウムを買ってあげようと思います」とほほ笑んだ。活動を始めただけは、メンバーの高村有加さん(看護4年)が筑波大入学前に働いていたころの経験だった。患者の多くが、安静を保つために一日中ベッドの上で真っ白な天井を見つめていたのだ。そこで高村さんは「病院の皆と星を見て安らぎを感じ、自分は一人ではないと感じてほしい」とグループを結成。その後、物理や医学、芸術などさまざまな分野に精通するメンバーが集まり活動を開始した。宇宙や星についての知識がある人はかりではないが、それぞれの経験を生かしイベントを行っている。

ユダヤ人迫害の歴史に学ぶ  
ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者なども収容され、厳しい迫害を受けました。最大規模の収容所・アウシュビッツがあったのもポーランドです。

ユダヤ人迫害の歴史に学ぶ  
ユダヤ人はゲット(強制居住区域)や強制収容所に送り込まれ、多くの命が失われました。ユダヤ人だけでなく、ポーランド人やロマ、同性愛者なども収容され、厳しい迫害を受けました。最大規模の収容所・アウシュビッツがあったのもポーランドです。

# 菌などの研究成果講演 参加者同士で意見交換も



講演の合間、テーブルトークで積極的に意見交換する参加者たち (1月6日、総合研究棟Aで)

研究の成果について失敗談や苦労話をするなどユーモアを交えながら話した。講演の合間には、参加者同士が意見を交換する「テーブルトーク」の時間が設けられた。参加者は「胞子の複雑な形の理由」や「ある胞子に特徴的な形の機能は何か」をテーマに、活発に意見を交換していた。



友人とほほ笑む三藤さん(左)(昨年10月、ポーランドの植物園で) = 本人提供

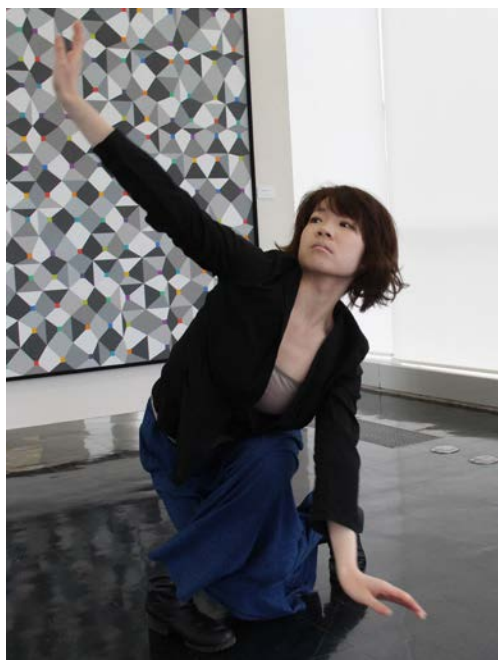
三藤紫乃  
「なんでポーランドに留学するの?」私が留学を決めた時、多くの人々に聞かれました。留学を決めたのは、昨年の秋のこと。幼いころに父の日記を読んで衝撃を受け、ヨーロッパの戦争の歴史、特にナチスドイツのユダヤ人迫害の歴史に興味を持ち、ポーランドで学びたいと決めた。



# Who's Who?

ダンスの国際振付コンクールで日本人初のグランプリ

## 幅田 彩加 さん (体育2年)



ダンスを披露する幅田さん (1月21日、大学会館で) = 原啓一郎撮影

昨年11月にベラルーシ・ヴィテブスクで行われた第27回国際モダンバレエ・コンクールで、伊藤湖太郎さん(平成23年度心理学類卒)とペアを組み、日本人初のグランプリを受賞した。数あるダンスのコンクールの中でも最大規模のもので、1位の更に上の賞としてグランプリが授与される。受賞者無しに終わることもある。

ど、受賞は難しい。「まさかグランプリを受賞できるとは思っていなかった。自分の中では、異なるジャンルのダンスを組み合わせた面白いダンスだったため、それを貫こうと思った」と振り返る。

創作ダンスは決まった振付がなく、創作者が「から表現を作る。日本ではまだあまり一般的ではないが、世界中に根強いファンがいる。ベラルーシで行われた決勝大会の会場は満席。世界の舞台は初めてで、海外で自分のダンスが通用するか不安もあったが、「決勝の舞台は緊張より楽しさが勝っていた」とほほ笑む。「育った環境、文化や価値観を超えて、心で自分の表現したいことを訴えることができた」

## 文化を超えて思いを伝える 日常をダンスの題材に

横濱市出身。友人にダンススクールに誘われ、8歳でモダンダンスを始めた。モダンダンスは決まった動きのルールがなく、思いを自由に表現できる。それが自分に合っており、夢中になった。次第に力がつき、国内の名高いコンクールで入賞するまでに。しかし常に私は何のために踊るのだからと、目的を模索し続けていた。更にダンスの世界に導いてくれた友人を小学生のころに、そして心の支えだった母親を高校生のころに亡くした。「ダンスも勉強も人の3倍頑張らなくて、友人や母親の分も私が生きよう」と心に決め、ダンスをはじめあらゆることに、食欲に打ち込む日々が続いた。

筑波大学入学後はダンス部に入部。多くの仲間に出会った。彼女らとダンスを創るうちに、「一人でダンスを創っていたころよりも視野が広がった」。そんな中、ダンスの本当の魅力に気づいた。文化や国境を超えて自分の思いを伝えたり、見る人に感動を与えることだ。「本当の魅力が分かった。ダンスを心から楽しめている」と語る。友人たちは現在、海外でプロとして活躍したり、地域の子ども向けにダンススクールを設立している。時々連絡を取り、励まし合ったり刺激を受けている。

昨年の11月の大会でペアを組んだ伊藤さんと、大学1年生の時に出会った。彼は筑波大のダンスサークルReal Jamに所属していた。伊藤さんは年末年始から、ダンス部とReal Jamが共用する筑波大のダンス場で、一人汗だくになって踊るほどの熱心なダンサー。その一生懸命な姿が印象に残り、ペアを組んだ。今回の作品では、細かい動きまで手足の角度を決めたり、動きのブレをなくすことになった。本番前には、「楽しもう」と励まし合った。グランプリ受賞直後は実感が湧かなかったが、周囲から「めでとう」と声をかけられ、二人で「本当にグランプリになったんだね」と笑い合った。

休日には美術館に行ったり、映画を観て過ごす。映画を観る際には、出演者の姿勢や動作をこ細かに観察。「気が付くと、友人の何気ないしぐさもじっと見てしまう」。日常生活の中から、無意識にダンスの材料を探している。

グランプリ受賞をダンス人生のゴールにはしない。「今回の受賞をきっかけに、今後いろいろなダンスを創作していきたい」。彼女の生み出すダンスは、これからも世界中の人々の心を動かしていくだろう。

次号は  
**4月6日(月)**  
発行予定です

https://www.tsukuba.ac.jp/public/newspaper/shinbunindex.html



Facebook  
はじめました!

筑波大学新聞の公式Facebookページができました。新聞の発行日や設置場所、最新号の見どころなどをお知らせしていく予定です。読者の皆様のご意見もお待ちしております。検索エンジンで「筑波大学新聞 Facebook」などで検索するか、以下のQRコードを携帯電話・スマートフォンなどで読み取ってください。

また、筑波大学新聞のバックナンバーは以下のURLでご覧になれます。

## 落語研究会 40 周年記念ライブ



大喜利を披露する研究会員たち (1月17日、ノバホールで) = 山野辺拓実撮影

5面へ

## 全日本大学選手権決勝



ボールを取り合う両校の選手たち (1月10日、帝京大戦で) = 平嶋健人撮影

8面へ

## 全日本ラート競技選手権



斜転の演技を披露する松浦佑希 (昨年12月14日、つくばカピオで) = 本人提供

9面へ

## 社会貢献プロジェクト



望遠鏡を覗き込む参加者たち (昨年9月3日、筑波大学附属病院で) = UNICO提供

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活